

正解は、ひとつではありません。迷ったとき、ともに歩む『伴走者』でありたい。

PTAの呼称・名称整理ガイドライン

～正解のない時代の「道しるべ」～



(一社) 北九州市PTA協議会

本ガイドラインのスタンス ～正解のない時代の「道しるべ」～

「正解はありません。市P協は、皆さんが悩むときの『伴走者』です。」



強制しません

特定のやり方や、名称の変更を強要するものではありません。



推奨もしません

「名前を変えるべき」「変えないべき」という特定の方向を促すものではありません。



判断材料として提示します

各単位PTAが「自分たちにとってのベスト」を考えるための、客観的な整理軸として情報を提供します。



学校の規模や地域性によって、目指すべきPTAの形は異なります。すべてに当てはまる「たった一つの正解」はありません。このガイドラインは、各校が無理なく持続可能な形を模索する際の「道しるべ」としてご活用ください。

名称を考える前に確認したい「大原則」

「制度は守る。文化は変える。呼称整理は、子どもを中心に据えた再設計の『入口』です。」

【守るべき軸：変えてはいけないもの】



制度とリソース（安心の基盤）

規約、口座名義、保険制度などの法的・実務的な枠組みは維持し、トラブルを防ぎます。



教職員（T）との協働

PTAは保護者だけの組織ではありません。
「先生と保護者が共に子どもを支える」という社会教育関係団体としての根幹は手放しません。

【変えてよいもの：未来へのアプローチ】



組織の文化と呼び名

親しみやすさ、活動のスタイル、広報誌や募集時の「愛称」は、時代に合わせて自由に替えてよい部分です。



単なる「イメージチェンジ」や安易な「保護者会化」は、本来のパートナーシップを失うリスクをはらんでいます。名称について考えるこの機会を、ゴールではなく「これからのPTAをどうしたいか」を話し合う対話のきっかけにしてみてください。

PTAの呼称・名称について考えているあなたへ

「今、皆さんのPTAはどのような状況でしょうか？
当てはまる思いに近い方を選んで、次にお進みください。」

パターン①（前向きにアップデートしたい）



「『PTA』というネーミングが、
少し堅くて重く感じられるよう
になってきた…」

「中身の改革に合わせて、
愛称をつけて、もっと親しみ
やすい組織にしたい！」

→ 「愛称導入編」へ

④ ~

社会的信用（正式名称）を守りながら、親しみやすさ（愛称）を取り入れる「買い使い分け」のステップをご紹介します。

パターン②（根本的な負担感に立ち止まっている）

「とにかく役員の負担が重くて、
活動が回らない…」

「いっそPTAを解散して、
『保護者会』に変えてしまった
ほうが楽になるのでは？」



→ 「まず立ち止まって考える編」へ

⑪ ~

「保護者会化」に潜むリスク（先生との関係性の喪失など）を知り、負担軽減への本質的なアプローチと一緒に考えます。

PTAに愛称をつける前に知っておきたいこと

～「呼び名を変える」より「伝わり方を変える」～



「イメージを変えたい！」
その前向きな一步を、正しい「進化」
につなげるためのガイドです。

「PTAって聞いただけで重そう…」 その現状の悩み、よくわかります。



現場のリアルな声

- 「役員負担を減らしたい」「もっと気楽に参加できる組織にしたい」という切実なニーズが高まっています。



「名前を変えたい」は前向きなサイン！

- ネガティブなイメージを払拭し、「親しみやすい愛称をつけたい」という動機は、PTAを良くしようとする素晴らしいエネルギーです。

大切なのは、その「変えたい」という熱意を、
本質的な負担軽減と持続可能な仕組みづくりへつなげることです。

愛称とは何か？（ガイドラインの基本整理）



【方針1】 正式名称（〇〇PTA）は維持する

規約、銀行口座、外部との契約などはこれまで通り。法人格の有無に関わらず、社会的な信用と安全を守るための「骨格」です。



【方針2】 呼称（愛称）は自由に活用OK！

活動紹介、広報誌、ボランティア募集チラシなどには、親しみやすい愛称を積極的に使って構いません。（例：〇〇サポーターズ、〇〇応援団）

愛称は正式名称を捨てるためのものではなく、活動の「魅力」をわかりやすく伝えるための補助ツールです。

実践事例：大里柳小学校「やなぎっこ応援団」

加入率：高い水準で維持！
本部役員：有志（立候補）で多数継続中！

- 対外的にはしっかり「PTA」の名称を維持。
- 時代に合わせて活動内容やスタイルを大幅に改革。
- 変わった実態に合わせて、愛称「やなぎっこ応援団」を採用。



成功の核心は「名前を変えたから人が集まった」ではありません。
子どもたちのために中身（活動）を変え、その「変化の象徴」として愛称がついたからです。

愛称導入の正しいステップ



! 注意：中身を変えずに「名前だけ」を変えると、かえって現場の混乱や不信感を招く原因になります。順序を守ることが成功の鍵です。

柔軟に「着替える」ために。変えていいこと・いけないこと

【変えてはいけないこと】 (制度・システム)



- 規約上の正式名称 (〇〇PTA)
- 口座名義、保険制度などの実務的リソース
- 教職員 (T) の参画：保護者だけの組織になると、学校との「対等なパートナーシップ」が崩れ、単なる労働力提供組織になるリスクがあります。先生と共に活動することが最大の価値です。

【変えてよいこと】 (文化・ソフト面)



- 親しみやすい愛称の導入
- 広報のスタイル (SNSやデジタルツールの活用)
- 活動の進め方、行事の精選、気軽に参加できる雰囲気

愛称はゴールではなく、より良いPTAへの「対話のきっかけ」



1. 愛称は「変化の象徴」です:
活動を時代に合わせてアップデートし、その新しい魅力を伝えるために愛称をフル活用してください。

2. 正解は一つではありません:
学校や地域によって、目指すPTAの形は異なります。各校の実情に合わせて、無理なく持続可能な形を模索しましょう。

3. 私たちは、皆さんの「伴走者」です:改革を進める中で「規約上どうなんだろう?」「他校はどうしている?」と悩むことがあれば、いつでも市P協にご相談ください。

子どもたちの笑顔のために、一緒に「正しい進化」を始めましょう!

その「決断」、少し待ってください

～PTAを変える前に、失うものを知っておこう～

11



時代に合わせて変化することは「正しい進化」です。
しかし、結論を急ぐ前に、一度だけ立ち止まって一緒に考えてみませんか。

その切実な思い、決して間違っていない

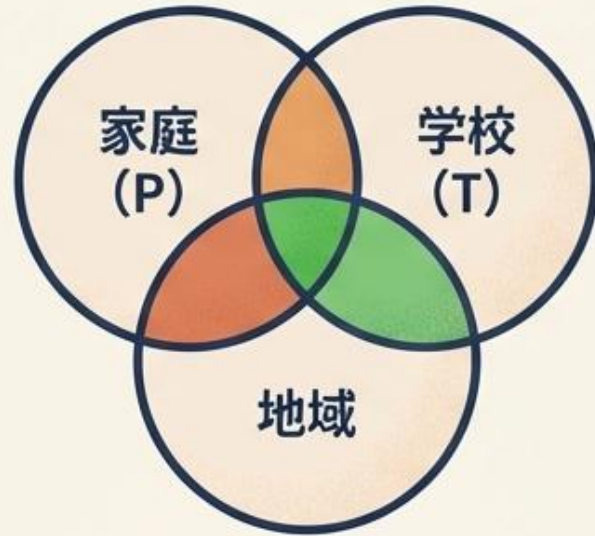


- 「役員の負担が重すぎる」「義務感だけで参加している」「正直、PTAが辛い」
——全国の学校で高まる切実な声。
- 「今のままではいけない」という皆さんの問題意識は完全に正しいものです。

しかし、「負担軽減」への願いが強すぎるあまり、本質的な議論が置き去りになる懸念があります。急いで組織を「無くす」前に、「何を変えるべきか」を一度見極めませんか。

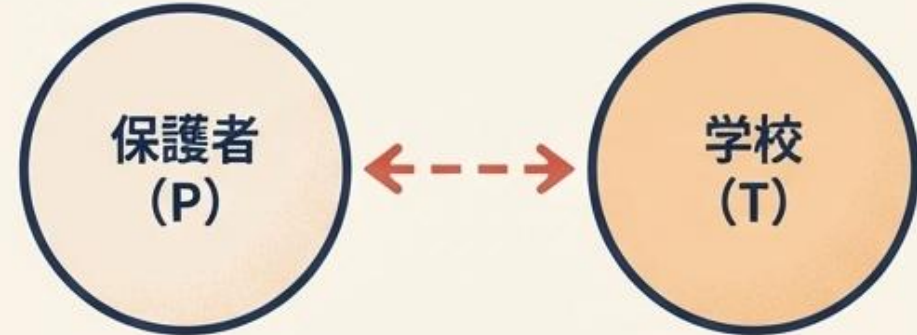
「保護者会」と「PTA」の決定的な違い

PTA（本来の姿）



大人同士が立場を超えて学び合い、協働し、
子どもの成長を支える社会教育関係団体。

単なる保護者会（懸念される姿）



保護者だけの組織。教職員との連携が薄れ、単なる学校の「応援団」「労働力提供」になりがち。

PTAの真価は「行事をタスクとしてこなすこと」ではなく、「大人同士が学び合う協働のプロセス」にあります。

「T（先生）」がいなくなる、2つの大きなリスク

懸念される落とし穴



『PTA』という名前を外すことで、
『T（先生）』の存在が希薄になり、
組織の性質が変わってしまいます。

リスク1：パートナーシップの喪失



教職員が会員から外れると、学校とは「対等な協力者」ではなく、単なる「労働力を提供するだけの関係（下請け）」になり下がる恐れがあります。

リスク2：社会教育性の喪失



公的な「社会教育関係団体」としての
要件を満たさなくなります。

安易な名称変更・解散は、学校と家庭をつなぐ「T」を切り離し、
保護者を単なる「都合の良い労働力提供組織」へ変質させる危険性をはらんでいます。

悩みの「本当の原因」を切り分けてみましょう

解散しなくても、今の悩みは解決できるかもしれません。

表面的な悩み

本当の原因

「役員の負担が重すぎる」

PTAという組織のせいではない

○ 活動の量・やり方の問題

「参加しにくい・義務感が強い」

PTAという制度のせいではない

○ 募集・広報スタイルの問題

「PTAのイメージが悪い」

PTAそのもののせいではない

○ コミュニケーションの問題

課題の多くは「組織（ハード）」を壊すことではなく、
「やり方（ソフト）」を変えることで劇的に解決可能です。

全てを壊す必要はありません。「守る」と「変える」の賢い選択



【守る】制度・リソース（骨格と安全）

- 正式名称（〇〇PTA）
- 規約、口座名義、保険制度
- 教職員（T）との協働の姿勢



【変えてよい】呼称・文化（親しみやすさ）

- 活動の量やスタイル
- 役員の担い方、広報の方法
- 親しみやすい「愛称」

「社会的信用」と「安全」を守りながら、「親しみやすさ」という衣服を着替えるアプローチがお勧めです。

成功事例：解散ではなく「正しい進化」を選んだ学校

大里柳小学校の事例

- 徹底的な役員負担の見直しを実施し、誰もが参加しやすい仕組みへ変化。
- 改革された実態に合わせ、愛称「やなぎっこ応援団」を採用。
- ※対外的な契約や制度上の枠組みは「PTA」を維持。

加入率 高い水準で維持
本部役員（有志）も多数継続中



教訓：「名前を変えたから人が集まったのではなく、中身（活動スタイル）を変えて、その象徴として愛称がついた」のです。

呼称変更や解散はゴールではなく、対話のきっかけです



- 正解はありません：学校や地域によって、目指すPTAの形は異なります。
- まずは先生と保護者で「自分たちのPTAはどうありたいか？」を話し合ってみてください。
- このガイドラインは強制でも推奨でもなく、皆さんが考えるための「判断材料」です。

市P協は、皆さんが悩み、考える際の「伴走者」です。各校の実情に合わせ、無理なく持続可能な形を一緒に模索していきましょう。一人で悩まず、いつでもご相談ください。